

平成 21 年 4 月 3 日

関 係 各 位

和歌山市坂田 8 5 番地
株式会社島精機製作所
(コード番号 6222 東証・大証一部)

『フュージョンミュージアム ニット×トイ』オープンのお知らせ

【1】施設コンセプト

このたび弊社では、ニットとおもちゃが融合（フュージョン）した世界で初めてのミュージアム施設、『Fusion Museum KNIT×TOYS』を開設いたします。このミュージアムでは、ニット発展の歴史をたどりながら最新鋭のニット機器やデモンストレーションをご覧いただくことに加え、世界的なおもちゃコレクターである北原照久氏のコレクションの展示を併せて行います。

世界に類を見ないフュージョンミュージアムからは、「子供たちが機械の仕組みや歴史に触れることで『なぜか?』という気持ちを感じ、それをきっかけとして知恵に変えること」と、「アンティークのおもちゃによって使い終わったものに新しい価値を見出すことの大切さ」のふたつの教育的なメッセージを発信しています。

加えて編機の動きや部品のしくみを実際に観察し体感することで、昨今の理科系離れが進む子供たちにモノづくりの面白さに気付かせ、創造する力、知的探究心を呼び起こし、「夢」を育む環境づくりを提供していきます。

さらに、二世帯、三世帯に渡る親と子がこのミュージアムの展示物に、ともに触れることで、それぞれのコミュニケーションを育む一助となり、ひいては昨今低下しつつあるモラルやマナーの向上に結び付くと同時に、創造力の芽を生み出す機会になればと考えます。

ミュージアムを見下ろす和歌山城の天守閣の築城は 420 年前にさかのぼりますが、同年は英国のウィリアム・リーが世界で初めての靴下編機を発明し、メリヤス編みが始まった年でもあります。和歌山城の天守閣が落雷で焼失した 1847 年には、マシュー・タウンゼント（英国）がベラ針を発明し横編機の歴史が始まりました。和歌山県は徳川家の産業育成策のもと、古くから繊維産業が栄えた地域ですが、和歌山とニットは多くの縁で結ばれており、和歌山で生まれたシマセイキがスライドニードルを開発し、ホールガーメント（無縫製ニット）横編機に搭載したのはベラ針が発明されてから 150 年後のことでした。

メリヤス編みを中心とするニット産業は和歌山の地場産業であり、弊社はこの地において編機メーカーのパイオニアとして成長を続けてきました。弊社は、そうした歴史と文化を貴重な遺産として情報発信し、内外から多くの方々が集まる施設としてフュージ

ョンミュージアムを開設し、空洞化する中心市街地の活性化における文化的コアとしての役割を果たしたいと考えています。

【2】弊社が提案する新しいビジネスモデル

弊社が開発したデザインシステムSDS-ONE APEXは、ホールガーメントのモノづくりにおける新しいビジネスモデルとして『Ordermade』を提案しています。これは膨大な編成テストと検証済みの実績値をデータベース化し、顧客のサイズや好みに合った上質で世界でたった一つのホールガーメントを、簡単かつスピーディーに仕上げるものです。ホールガーメント（無縫製ニット）横編機は弊社が1995年に世界で初めて開発し、継ぎ目なく1枚のニットウェアを編み上げることができ、生産ロスがなく省力化が図れると同時に、軽量で着心地のよい究極のニット製品を実現した、地球環境にやさしい商品として浸透が進んでいます。

新開発のホールガーメント横編機MACH2（マッハツー）は従来機に比較し2～4倍以上の生産効率を実現できる非常に画期的な編機です。この編機を駆使することで従来の労働集約型産業から脱皮し、旧態とした繊維産業からファッション産業へと国内回帰を果たすことができるとともに、地球にも人にもやさしいニット製品を作ることを通じて、消費者の心の満足度を高めることが可能となります。

このミュージアムでは同フロアにあるファクトリーブティックと連動しながらトータルニットイングシステムを幅広く展開し、斬新で魅力的なニットのモノづくりを提案してまいります。

さらに今回、新しいビジネスモデルとして、『Ordermade』ビジネスのなかの素材やデザインを決める部分や寸法入力が、SDS-ONEのネットワークで結ばれたパソコンを持つ各地のショップでも行うことができるようになります。これにより少ない設備投資で本格的なオーダーメイド・ホールガーメント製品の販売を、リーズナブルなプライスでかつスピーディーに消費者に提供することが可能となるため、編機やシステムの稼働率向上につなげるとともに、消費地型生産において省力化を果たしロスなく、高利益率を実現することで、「衣の文化」を高めることを目指してまいります。

また、「東京発 日本ファッション・ウィーク（JFW）」と連動し新人のニットデザイナーの発掘・人材育成とホールガーメントのコラボレーションにも取組み、今後のニット業界に発展にもつなげて行きたいと考えています。

【3】施設概要

このミュージアムでは、編機はニットの壁に囲まれて展示され、おもちゃは大きなおもちゃ箱の中に展示されています。これら2つの展示空間はいくつかの場所で出会い、連続し、行き来をすることができ、全体は紀州産ヒノキ材で囲まれています。

1. フュージョンミュージアム・ニット

①編機の展示

英国 1800 年代の靴下編機、手動手袋編機、全自動手袋編機、手動横編機、コンピュータ横編機、デザインシステムなどの実機および写真パネルの展示

②繊維機械、弊社の技術開発史の年表パネルの展示

③編み針を始めとした様々な編機部品、ニットに関する素材、資料の展示

④ホールガーメント横編機の稼働展示

⑤ハイビジョンシアター

高輝度・高精細ブルーオーシャンスクリーン（145インチ）による弊社デザインシステム SDS-ONE APEX のデモンストレーションなど

2. フュージョンミュージアム・トイ

①モーションディスプレイ（ショーウインドーを飾る動く人形）のコレクション

古き良きアメリカの時代を彩る様々なテーマによる多様な動きの人形たち

②ペダルカー

子供たちが憧れた本物の自動車にひけをとらないほど精密な造りの乗り物

③セルロイド玩具

セルロイド素材の特性を活かした人形やおもちゃは日本製のものが圧倒的な人気を集めました

④その他、女の子の玩具や男の子の玩具、ブリキ玩具、駄菓子屋で売られていた駄玩具など幅広く展示しています。

【4】その他

①館長 北原照久氏

1948年東京生まれ。世界的なブリキのおもちゃのコレクターの第一人者。

②所在地 フォルテ ワジマ 3階（和歌山市本町2丁目1番地）

③面積 ミュージアム部分 1,355.94㎡

④開設日 平成21年4月4日（土）

⑤開館時間 午前10時～午後7時（休館日1月1日～3日）

⑥入場料 大人300円、子供（小中高校生）100円

以上